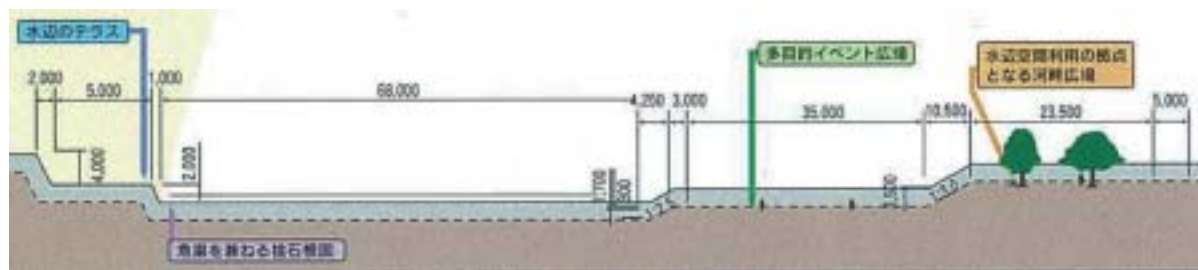


事例No.4

事業名	広域河川改修事業	事例キーワード 多孔質護岸、景観護岸、水辺空間利用
事業担当機関	秋田県平鹿地域振興局建設部	
事業期間	昭和44年～	
実施場所	横手川（横手市）	
事業概要	全体事業費 217億円 工事概要 河川改修 L = 6.12km 事業の目的 横手川は、奥羽山脈を源とし急峻な山地を流下した後、横手盆地を大きく蛇行しながら貫流する河川で、度重なる洪水被害をもたらしてきました。特に昭和40年7月洪水には市街地の3分の1が浸水する大きな被害を受けています。当事業は、この洪水を契機として洪水被害を軽減し、民生の安定を図るために実施したものである。	
内容環境配慮の	当事業では、洪水を安全に流下させるとともに、河川環境に配慮した川づくりを実施しています。 1. 低水護岸は現地発生の石を使用した護岸とし、また植生が早期に回復する工法の実施。 2. 魚が住みやすい巨石を使用した多孔質護岸の採用。 3. 城下町の景観にふさわしい自然石の護岸の採用。 4. 地域住民が気軽に川とふれあえる河川敷やアクセスが容易な緩傾斜路の整備。	
状況工後の	1. 早期の植生に配慮した箇所では、緑豊かな植生が図られている。 2. 巨石を使用した護岸では、稚魚が確認されている。 3. 河川敷は、地域住民の憩いの場になっているほかに、横手川フェスタが行われるなど、住民が川と親しむ場となっている。	

図面、写真、説明

改修横断面図



植生が図られた状況



魚に配慮した巨石護岸の使用状況



稚魚の様子



景観に配慮した護岸の採用



住民が親しみやすい河川敷の整備（水辺空間の利用）